

大学・高専機能強化支援事業
(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)【支援2大学】
事業概要

令和5年7月時点

選定年度	令和5年度	学校コード	F127210111989
大学名	大阪公立大学	設置区分	公立
学校種	大学	都道府県	大阪府
申請形態	研究科等の設置・増員（一般枠）		

1.事業概要

大阪公立大学大学院・情報学研究科は、令和4年4月に大阪市立大学と大阪府立大学を統合し新設された研究科である。本研究科は、高度な研究を遂行する能力と他領域の研究を理解し協働する力を兼ね備え、社会問題に対して適切且つ効果的な解決策を提供し、持続可能な社会の実現に貢献する高度職業人の養成を目的としている。本事業では、博士前期課程の入学定員90名を令和7年度及び令和11年度に各15名増員し、計120名まで拡大する。また、本研究科の教育研究環境をさらに高度化・専門化・国際化するため、①優秀且つ多様な学生を受け入れる入試改革、②特任教員の採用及び世界レベルの教員招聘による授業、③英語履修コースの整備とダブルディグリープログラムの拡充、④卒業生等と連携する「DE&Iアンバサダー」制度、⑤産学官民と連携する「スタートアップ＊パートナーシップ」事業、⑥「国際的人材サイクル」を稼働させる人材育成プラットフォームを形成する総合的な機能強化を図る。

2.基本情報

大学全体の収容定員数等の変化（予定）

		博士課程	修士課程	大学院計	学士課程
大学全体の情報系組織の収容定員	増員前	45	180	225	512
	増員後	45	240	285	512
	増分	0	60	60	0
大学の全組織の収容定員	増員前	896	4,026	4,922	
	増員後	896	4,086	4,982	
	増分	0	60	60	
情報系組織の収容定員の占める割合	増員前	5.0%	4.5%	4.6%	
	増員後	5.0%	5.9%	5.7%	
	増分	0.0%	1.4%	1.1%	

※正規課程の人数

※令和5年5月1日時点

改組・増員前の組織情報

課程		組織名	入学定員	収容定員	改組時期・内容
博士	情報系	情報学研究科	10	30	
		基幹情報学専攻			
		情報学研究科	5	15	
		学際情報学専攻			
		計	15	45	
修士	情報系	情報学研究科	65	130	R7増員、R11増員
		基幹情報学専攻			
		情報学研究科	25	50	R7増員、R11増員
		学際情報学専攻			
		計	90	180	
学士	情報系	工学部 情報工学科	77	312	
		現代システム科学域	50	200	
		知識情報システム学類			
		計	127	512	
		計	0	0	

※情報系組織の改組・増員に関わる組織のみを記入。コース等で実施の場合はコース等単位で記入。

※学士の入学定員には編入学定員を含む。

改組・増員後の組織情報（予定）

課程		組織名	入学定員	収容定員	改組時期・内容	所在地
博士	情報系	情報学研究科	10	30		大阪府堺市中区・大阪府城東区
		基幹情報学専攻				
		情報学研究科	5	15		大阪府堺市中区・大阪府城東区
		学際情報学専攻				
		計	15	45		
	情報系以外	改組前との差	0	0		
		計	0	0		
		改組前との差	0	0		
		計	0	0		
		改組前との差	0	0		
修士	情報系	情報学研究科	85	170	R7、R11に各10名増員	大阪府堺市中区・大阪府城東区
		基幹情報学専攻				
		情報学研究科	35	70	R7、R11に各5名増員	大阪府堺市中区・大阪府城東区
		学際情報学専攻				
		計	120	240		
	情報系以外	改組前との差	30	60		
		計	0	0		
		改組前との差	0	0		
		計	0	0		
		改組前との差	0	0		
学士	情報系	工学部 情報工学科	77	312		大阪府堺市中区
		現代システム科学域	50	200		大阪府堺市中区
		知識情報システム学類				
		計	127	512		
		改組前との差	0	0		
	情報系以外	計	0	0		
		改組前との差	0	0		
		計	0	0		
		改組前との差	0	0		
		計	0	0		

改組・増員後の情報系組織の学位分野（予定）

課程	組織名	学位分野（主なもの6つまで）					
博士							
修士	情報学研究科 基幹情報学専攻	工学関係					
	情報学研究科 学際情報学専攻	工学関係					
学士							

令和5年度選定 支援2（一般枠） 大阪公立大学



<基本情報>

改組内容：研究科等の設置・増員

情報系組織名：＜博士前期課程＞情報学研究科 基幹情報学専攻、情報学研究科 学際情報学専攻

＜博士後期課程＞情報学研究科 基幹情報学専攻、情報学研究科 学際情報学専攻

情報系組織の入学定員：＜博士前期課程＞【R7増員】改組前：90名 → 改組後：105名、【R11増員】 → 改組後：120名

所在地：大阪府堺市中区、大阪市住吉区（2キャンパス体制） → 【R11以降(予定)】：大阪府堺市中区、大阪市城東区（移転予定）



情報学研究科
Graduate School of Informatics

<計画の特徴・コンセプト>

令和4年4月に開設した研究科・専攻の教育研究環境をさらに高度化・専門化・国際化し、期間中に現状の入学定員の1.3倍の増員を行い、優秀且つ多様な学生を受け入れる。学長・副学長・研究科長等のトップマネジメントによる事業進捗管理、自己点検評価、学修者の質保証に向けた改善取組等を強化し、情報学分野の専門知識を活用して高付加価値化を牽引し、社会の課題の解決を目指す教育者・研究者・高度専門人材を育成する。

<申請条件に対応した取り組み> 定員増計画と情報学分野におけるデジタル人材育成プラットフォームの形成

1. 優秀且つ多様な学生の受け入れ	2. 特任教員採用・世界レベル教員招聘	3. 国際通用性の高いカリキュラム
申請条件 ②・③・④関連 高度専門人材育成に向けて、入試改革を行い、優秀且つ多様な学生を募集 情報系分野の裾野拡大、多様化・国際化・高度化及び理数系ジェンダーギャップ解消に向けた取り組みとして入試制度改革を行う。また、情報系の公的試験・資格を活用した入試制度を検討する。留学生向けのダブルディグリー・プログラムについては従来の取り組みを事業期間中にさらに強化・拡充する。 従来の実質的な募集範囲を全国に拡大	申請条件 ④・⑤関連 教育指導体制の充実と国際化を推進し、国際的に活躍できる高度専門人材を育成 特任教員を採用し、カリキュラムの高度化・国際化・充実化を図る。また、連携実績のあるドイツ人工知能研究所(DFKI)・カイザースラウテルン工科大学(独)、CYセルジーバリ大学(CT-TECH)・国立高等応用電子学院(ENSEA)(仏)等との連携を強化し、世界トップレベルの教員・研究者・実務家を招聘し、特別授業及び研究指導の機会を拡充する。	申請条件 ②・③・④関連 ダブルディグリー・プログラムの強化と英語履修コースの整備・教育環境の整備 事業期間中に研究科として英語のみで修了できる履修コースを整備し、現在実施しているダブルディグリー・プログラム制度による留学生の受け入れを拡充する。また、本学が提携する43の国と地域・238機関の大学・研究機関との交流を促進し、留学生の受け入れと本学学生の海外派遣を強化し、研究科の国際化を推進する。 主な連携先：MIT・コロラド大学ボルダー校・カリフォルニア大学サンタバーバラ校(米国)、トロント大学・クイーンズ大学(カナダ)、フィレンツェ大学、カリアリ大学(イタリア)、バルセロナ自治大学(スペイン)、アイントフォーフェン工科大学・グローニンゲン大学・デルフト工科大学(オランダ)、西スイス応用科学大学(スイス)、王立工科大学(KTH)(スウェーデン)、オーストラリア国立大学(豪)、王立ブノベン大学(カンボジア)、プリンスオブソークラ大学(タイ)、フエ大学(ベトナム)、マラヤ大学(マレーシア)、清華大学・上海交通大学・浙江大学(中国)など
4. 「DE&I アンバサダー」の登用	5. スタートアップ*パートナーシップ制度	6. 「国際的人材サイクル」の稼働
申請条件 ④・⑤・⑦関連 情報系、DX/AI分野で活躍する諸先輩を教育・指導に参画、産官学民の連携協力 研究科教員及び社会で活躍する実業家並びに「DE&I アンバサダー(=卒業生・修了生)」が連携し、学生が幅広い視野を持ち、実社会で活躍する具体的な目標を早期に確立できるように実務的な教育機会を提供する。 Diversity (多様性) Equity (公平性) & Inclusion (包括性) の要素を盛り込んだ教育環境の整備と人的交流 インターンシップ キャリア形成教育 アントレナージュ教育 異分野融合研究 共同研究 課題解決型PBL	申請条件 ③・④・⑦関連 行政/地域/企業ニーズを踏まえ課題解決できる人材を継続的に多数輩出する取組 事業期間中に教員・学生が専門性を活かしてDX/AIによるソリューションを提供するスタートアップを設立し、行政・企業等からの問題解決依頼を受け、社会の諸課題や企業ニーズに対応する実践的教育連携の枠組を構築する。 大阪公立大学 Graduate School of Informatics 参画 質保証 人材提供 起業 スピンオフ ソリューション・人材提供・派遣 DX/AIによる問題解決依頼 行政・企業等	申請条件 ②・③・④・⑦関連 研究科の先端研究・異分野融合教育研究・国際教育を通じ、世界で通用する人材を育成し学修者の質保証と進路支援を強化 世界レベルで活躍できる多様なキャリアパスを実現するため、自主経費を含めて各種学生支援策を展開する。 ●日本人学生のキャリアパス 修士(M)途中か修了後に海外渡航 海外では博士(D)に進学か、 日本か海外で就職(J) 最終的には日本に就職(J)に戻る ●外国人学生のキャリアパス 修士(M)のために本学に入 学修了後は博士(D)に進学、 あるいは日本か海外で就職(J) 博士修了後は日本か海外で就職(J) 日本人 外国人